

# 能代市農山村地域再生可能エネルギー共生協議会第一回会議

日時 令和2年3月27日（金）13:30～14:45

場所 能代市役所会議室9・10

## 会議概要

1. 開会挨拶 能代市長 齊藤 滋宣

2. 案件

(1) 規約（案）について

事務局より、資料1「能代市農山村地域再生可能エネルギー共生協議会規約（案）」について説明。  
→意義等なく、原案のとおり成立。制定日と施行日は、令和2年3月27日とした。

(2) 座長の選任について

事務局案として、秋田県立大学 生物資源科学部 長濱健一郎教授を推薦。  
→意義等なく、長濱健一郎教授が座長に選任された。

(3) (仮称) 能代山本広域風力発電事業の概要について

白神ウインド合同会社 小沼氏より、資料2「(仮称) 能代山本広域風力発電事業 計画概要」について説明。

<説明概要>

### ■目的

地元資本主体で風力発電事業を行うことにより、地域の風を地域で利用し地域に還元し、地域に貢献することとする。

※市民ファンド、農業への還元策等を検討

### ■計画概要

事業名 : (仮称) 能代山本広域風力発電事業

事業規模 : 約10万kW (4, 200kW×25基程度) ※基数の変更可能性あり

運転開始 : 第1期 令和6年2月

第2期 令和9年8月

上記ほか、事業計画地、スケジュール等について説明あり。

<質疑>

座長

白神ウインド : 小沼

1基あたりの面積は。

基礎が約600㎡。風車の旋回範囲は、直径114mの円となる。

座長 白神ウインド：大森	<p>地権者はどれくらいいるか。</p> <p>正確には不明だが35軒くらいだったと記憶している。</p> <p>先ほどの（小沼氏の）説明で、地元自治会から同意を得ていると勘違いするかもしれない説明があった。正確には、現在、地元自治会に説明に回っているが、交渉のテーブルについてもよいという段階であり、合意を得ている訳ではないので留意願いたい。</p>
-----------------	--

(4) 協議会について

事務局より、資料3「農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律の概要」、4「能代市農山村地域再生可能エネルギー共生協議会について」について説明。

<説明概要>

- ・ 農山漁村再エネ法の概要
- ・ 取り組みの流れ（基本計画作成の検討、協議会設立、設備整備計画の認定等）
- ・ 協議会設置の目的、構成員
- ・ 基本計画及び設備整備計画
- ・ 作業部会の設置と、その概要
- ・ 今後のスケジュール

<質疑、意見交換>

座長	青森県横浜町の基本計画を見ると、農業振興に資する取組が5行くらいとなっている。基本計画に反映される内容はこのくらいか。具体的なものは、設備整備計画に載ってくるという理解でよいか。
事務局	基本計画に盛り込まれる内容は、このくらい（横浜町の事例程度）を予定している。事業者が作成する設備整備計画に、具体的な取り組みが掲載され、その内容が、基本計画に沿っているものか審議する。
座長	協議会は基本計画（案）のとりまとめで終わりか。設備整備計画は協議会で審議するのか。
事務局	設備整備計画が基本計画に沿ったものになっているか判断するのは市町村。協議会は、基本的には計画（案）の取りまとめまでと思っている。
座長	<p>農業を通じた地域還元は大切なこと。農業のみではなく、地域にとってもプラスとなることが大事。</p> <p>秋田は冬期間の農業に課題がある。通年で農業生産が出来ればよく、本協議会で、今まで能代市に無かったような農業形態を検討し、雇用の増加につなげて欲しい。</p> <p>農業を行うにはエネルギーが必要。欧州では、農業におけるCO<sub>2</sub>排出が課題となっている。能代市は再生可能エネルギーに取り組んでおり、CO<sub>2</sub>削減に積極</p>

的。電気を直接農業に使う仕組みが出来ないかと思う。秋田は冬の日照不足と、気温が低いことが課題であり、光と熱が必要。電気を活用し、光を利用可能な取り組みについて、作業部会で検討してもらえれば。

利益を上げられる農業であるとともに、地域への還元を考える必要がある。風車が立地すると、地域の住民からしたら景観が変わることになる。風車が建つことで、農業が活性化し、さらに市民の利益につながる取り組みを検討頂きたい。そしてそれを、市民にPRしていけばよいと考える。

CO<sub>2</sub>削減は地球規模で実施していることを発信できるようなモデルが出来ると良い。

白神ウインド：大森

もうかる農業について、能代市はネギの生産が伸びている。電気を活用し、価値の高いネギを作ることは可能か。

座長

ネギにダイレクトに光、というのは難しいのでは。付加価値もどのような付加価値かを考える必要がある。電気を活用して、おいしい、栄養価が高い、というのは難しい。CO<sub>2</sub>を出していないネギ、というのはPR可能かもしれない。

白神ウインド：大森

トラクター等の農機具に、風力からの電気を供給するというのはどうか

座長

風力は常に発電している訳ではないので、そこは考える必要がある。また、そもそもトラクター等はパワーが必要であり、電気だと厳しいかもしれない。

J A：佐原

発電するうえでの副産物はないか

白神ウインド：星野

4000kW級の風車であれば、50kWくらいの熱が発生する。その熱をパイプで送ることは出来るかと。

県農業会議：櫻井

風車が設置される農地の種別と、その箇所に設置する理由は。

白神ウインド：小沼

農地は、第1種農地。

白神ウインド：星野

理由は、風況が良い箇所及び風車と民家との離隔距離を確保した箇所を、絞り込んだ結果が今の設置予定箇所。

農政局：金井

農山漁村再エネ法を活用した協議会設立は秋田県初。福島県では、平成29年度に1か所協議会が出来たら、その後3か所立て続けに出来た。本協議会での活動に期待したい。

協議会を進めるうえでは、発電事業者が自分の都合だけで進めてしまうとトラブルが発生する事例がある。いろいろな人の意見を聞きながら進めてほしい。必要に応じて、協議会が地域に行って、意見を吸い上げるのも良い。地域が納得する取組として頂ければと思う。

### 3. その他

事務局より、作業部会について、日程調整等のうえ開催日をお知らせすること等を説明。